

# 知求会ニュース

2023年5月

第86号

## ◎ 博士前期課程、入学おめでとうございます！

国際学研究科博士前期課程の後継である博士前期課程 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻グローバル・エリアスタディーズプログラムにおいて7名および多文化共生学プログラムにおいて9名が入学しました。

## ◎ 2022年度国際学部長賞受賞、おめでとうございます！

学部長賞（教員）	高橋若菜先生		
	藤井広重先生		
学部長賞（学生）	Hagiya Corredo Magda Yukari	団体賞	（藤井研究室）3年
	菊地 翔	団体賞	（藤井研究室）卒業
	鈴木ゆかり	団体賞	（藤井研究室）卒業
	Hagiya Corredo Magda Yukari	団体賞	（藤井研究室）3年
	Hagiya Corredo Magda Yukari		（藤井研究室）3年
	泉谷龍磨		（出羽研究室）4年
	川端千晶		（阪本研究室）4年

## ◎ 放送大学名誉学生、おめでとうございます！

館野治信さん（国際学研究科博士前期課程国際社会研究専攻11期生・博士後期課程国際学専攻5期生）が2023年3月25日に放送大学の名誉学生になりました。栃木学習センターでは11番目です。なお、「名誉学生」とは放送大学の6コース（生活と福祉・心理と教育・社会と産業・人間と文化・情報・自然と環境）をすべて卒業した学生を指します。

## ◎ 訃報

国際学部名誉教授の高際澄雄先生が2023年3月30日に享年74歳で永眠されました。ご冥福をお祈りします。編集者が最後に会ったのが、佐々木一隆先生の最終講義の日でした。その際にはお元気でしたので、信じられないです。なお、先生の追悼文は知求会ニュース第87号（2023年9月1日配信予定）に掲載します。

## ◎ 着任教員紹介その27

### 木村崇是助教

木村崇是先生が、2022年10月1日付けで着任されました。

氏名：木村崇是 (*KIMURA Takayuki*)

専門：言語学 第二言語習得

前職：ポスドク 非常勤講師

趣味：旅行

自己紹介：2022年10月に着任しました。私の専門は言語学と第二言語習得であり、母語話者がもつ自身の母語に関する、一見複雑で抽象的な言語知識、そして第二言語学習者が第二言語に関してもつそのような知識を体系的に解明することを通して、人間言語の特性を明らかにすることを目指しています。実際の研究では、日本語や英語の様々な構文を対象としてその構造の分析を行い、それらの言語の母語話者や第二言語学習者がもつ知識を記述した上で、他の言語との比較等も行いながら、背後に潜む人間言語の一般原理を探っています。国際学部には様々な言語のバックグラウンドをもつ学生が在籍していますので、学生の皆さんと議論をしていく中で、私自身も様々な学びや発見を得る日々となりそうです。

(2023年4月15日原稿受理)

#### **KIM Il Ju** 助教

KIM Il Ju 先生が、2022年10月1日付けで着任されました。

氏名：キム・イル ジュ (*KIM Il Ju*)

専門：移住、市民権

前職：大学講師

趣味：運動 ドラマ視聴

自己紹介：韓国で生まれ育ち、90年代後半から2000年代後半にかけて韓国社会で移民に関する言説が活発化するのを見て、移民と市民権問題に興味を持つようになりました。大学を卒業して数年間新聞記者として働きながら、より深く一つのテーマを掘り下げたいと思い、博士課程を始めました。韓国の結婚移住女性たちの市民権行為に関する研究で博士論文を取得し、日本で働くようになり、フィールドワークの範囲を日本に広げています。日本に来て6年以上経ちますが、まだまだ言語を含め、学ぶべきことがたくさんあることを日々改めて感じています。宇都宮大学では、まだキャンパス内に行ったことのない場所がたくさんあり、学生たちと毎日少しずつでも新しいことを学び、研究者として、教育者として成長できるよう努力していきたいと思えます。

(2023年4月16日原稿受理)

#### **LEE PEREZ Fabio** 助教

LEE PEREZ Fabio 先生が、2022年10月1日付けで着任されました。

氏名：リーペレス ファビオ (*LEE PEREZ Fabio*)

専門：文化人類学

前職：東北大学大学院文学研究科 助教

趣味：怪獣 宇宙人 料理 サイクリング 映画

自己紹介：2022年10月に着任しました。幼少期から移動を繰り返し、複数の社会・文化の中で育った人々をストレンジャーと捉えて、彼ら/彼女らの移動した先々で出会った人々との関わりを友人関係から研究しています。ストレンジャーは、日本社会ではハーフや移民の子どもや帰国子女を「外国につながる人」と称して総括されていますが、私の研究では特定の社会だけでは捉えきれない複雑な移動の遍歴と文化的背景を持つ人々のことを指します。私たちは、人の移動が混在化し、文化的背景の異なる人々と共に生きる世界を生きています。そんな中で、「私」とは異なる「他者」と関わるとはどういうことなのかの課題について考えています。他者との関わりの中で、互いの違いを「煩わしい」と思い「折り合い」をして、「思い違い」を繰り返して「知る」試みをしています。当然、無視もします。異なるもの同士、友人関係は芽生えるのか？それはどういう友人なのか？

(2023年4月6日原稿受理)

## ◎ 掲載記事紹介

1. UU now 第56号(令和4年4月20日)2-5頁に、『座談会 特集1 SDGs、2030年のその先の未来を描こう』コーナーにおいて松金公正先生(副学長・国際学部教授)と飯塚明子先生(留学生・国際交流センター准教授)らの記事が掲載されました。

## ◎ 国際学部だより

1. UU now 第56号(令和4年4月20日)10頁に、『Welcome to 授業』コーナーにおいて「国際学部国際学科「人の国際移動と日本」」の題で申 惠媛先生(国際学部助教)と Dano Jael Fuentes さん(国際学部国際学科3年)、佐藤美空さん(国際学部国際学科2年)、清本まゆみさん(国際学部国際学科2年)らの記事が掲載されました。

2. UU now 第56号(令和4年4月20日)15頁に、『Utsunomiya University News』コーナーにおいて「国際機関が主催する国際人道法の2つの大会にて準優勝しました」の題で藤井広重先生(国際学部准教授と学生)らの記事が掲載されました。

## ◎ 新刊案内

1. 国際学部と国際学部附属多文化公共圏センターより3月下旬に、多文化公共圏センター年報 第15号 222頁が刊行されました。目次を以下に記します。(敬称略)

はじめに

国際学部附属多文化公共圏センター長 高橋若菜

I 特集「多角化する多文化公共圏センター」

座談会「多角化する多文化公共圏センター ー多文化公共圏フォーラムを創設して」

中村 真・高橋若菜・米山正文・倪 永茂・申 惠媛・田宮純子

「オンライン国際交流2022（チェコ共和国）」

—多文化公共圏実践演習と多文化公共圏フォーラム— **松井貴子**

「HANDS 事業—継承と刷新—」 **立花有希・スエヨシ・アナ・申 恵媛**

「福島原発震災に関する研究フォーラム—発災から12年の道のり—」

**清水奈名子・高橋若菜**

「『日光プロジェクト』2022年度実施報告書」 **倪 永茂・重田康博**

「多文化共生教育コンソーシアム—概要と連携授業の紹介—」 **出羽 尚**

「国際学部の新しい強みへ、国際人道法大会での準優勝

—2022年度国際人道法模擬裁判・ロールプレイ大会に関する報告会—」

**藤井広重・中村 真**

「UU-TEAの活動を振り返る—スリランカ紅茶プランテーション農園コミュニティの抱える問題と学生による国際協力への取り組み—」 **栗原俊輔**

「UU3S (Utsunomiya University Students, SDGs, Solution) プロジェクトの取り組み」

**高橋若菜**

「グローバル・サウスとの共創—2022年度活動報告：研究・教育・地域活動をつなぐ—」

**阪本公美子・内田啓子・菊地由起子・Stanislaus Acquah・P.D.P.Sanjeewa**

「アジア移民ハイウェイ—2022年度活動報告：サーベイ調査の実施」 **松尾昌樹**

「多様な学び研究会—『自主夜間中学について考える連続研修会』第1回を起点として—」

**佐々木一隆・田巻松雄**

## II 投稿論文

「チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』（2016）から読み解く日本の

ジェンダー問題—躍進する韓国フェミニズムを手掛かりに—」

**丁 貴連・荻原ののか**

「日本人が主宰するチェコ俳句会—南チェコのヴォドニャニにて—」 **松井貴子**

「ペルーにおける党制度の長引く危機の原因とその結果

—不安定な政治と安定的な経済—」 **スエヨシ・アナ・深澤誠哉**

「日本の介護分野における外国人の受入れ動向と課題

～労働力確保と専門人材育成の狭間で～」

**鄭 安君**

「外国人介護人材受入・育成・定着に向けて（2）

—介護福祉士養成施設における事例からの位置考察—」

**堀 強**

「タンザニア5地域の市場調査—取り扱い食品からみる地域食性—」

**武藤杏子・奥井鮎沙・津田勝憲・阪本公美子・大森玲子**

## III 活動報告

### 1 ニュースレター『HANDS next』

- 2 「国際平和と人権・人道法研究会」2022年度の活動報告
  - ① 「国際協力機関インターンへのプロセスと活動」2022年度学生座談会
  - ② 「国際問題を考える」高校生との夏の交流会・子どもの国際人権ワークショップ  
実施報告書
  - ③ 大学間交流を通じた The Global Week to #Act 4 SDGs
- 3 多文化公共圏センター・ワーキングペーパーシリーズの取り組み
- 4 多文化公共圏フォーラム第1回～28回（チラシ）

#### IV 関連資料

- 1 組織・年度活動報告
- 2 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報発行要綱
- 3 新聞記事

#### \* 『HANDS next—とちぎ多文化共生教育通信』のお知らせ

2007年9月20日に、ニュースレター『HANDS』第1号が発行されました。2010年度より宇都宮大学特定重点推進研究グループ通信『HANDS』がリニューアルされ、『HANDS next』として再出発することになりました。

第28号(2022年3月1日)

HANDS—新たな始動

国際学部准教授 **立花有希**

学生ボランティア感想

学習支援を通じた気づきと学び

大学院地域創生科学研究科博士前期課程2年 **アギーレ ナルミ**

国際学部国際学科2年 **清本まゆみ**

学生ボランティア感想

スペイン語圏にルーツがある児童生徒との交流

国際学部国際学科4年 **陳 泓宇**

令和4年度子ども国際理解サマースクール報告

サマースクールに参加して

国際学部国際学科3年 **高良ユカリ**

那珂川町国際交流事業 国際交流体験 報告

国際学部国際学科1年 **松本愛未**

2022年度栃木県における

多言語高校進学ガイダンスの開催状況

多文化公共圏センター研究員 **田巻松雄**

事務局だより

—令和4年度活動—

1. 外国人児童生徒教育推進協議会（栃木県教育委員会 後援）  
第1回 2022年9月22日（宇都宮大学UUプラザにて対面で開催）  
第2回 2023年1月30日（オンライン開催）
2. 外国人児童生徒支援のための学生ボランティア派遣（通年）
3. 真岡市 AMAUTA 外国人児童生徒支援のための学生ボランティア夏期集団派遣：  
7/27、8/3、8/10、8/17の合計4回（参加延べ人数33名）
4. 子ども国際理解サマースクール（宇都宮市東生涯学習センターとの協働）：8月2日
5. 多言語による高校進学ガイダンス  
下野新聞社主催の栃木県高等学校進学フェアへの参加：9月4日（宇都宮会場：栃木県総合文化センター）、9月19日（栃木会場：とちぎ岩下の新生姜ホール）  
宇都宮大学主催：9月11日（大学会館）  
\*その他、6月26日（日）真岡市教育委員会主催「外国人の親子向け高校進学ガイダンス」にシンハラ語通訳1名（本学学生）派遣、10月1日（土）栃木市主催の多言語ガイダンスに多言語資料を提供
6. 那珂川町国際交流イベント（那珂川町教育委員会との共催）：10月8日
7. ニュースレター『HANDS next』第28号の刊行：3月
8. 栃木県における外国人生徒の進路状況調査：2月～3月

\*真岡市国際交流協会「イヤー・エンド・パーティ」は新型コロナウイルスの影響で中止。

#### ◎ 放送大学栃木学習センター面接授業

1. 英語の使い方を学び、実践する 2023年04月22日（土）1時限～4時限  
2023年04月23日（日）1時限～4時限  
**出羽 尚**先生（国際学部准教授）
2. 入門者のための韓国語講座 2023年05月13日（土）1時限～4時限  
2023年05月20日（土）1時限～4時限  
**丁 貴連**先生（国際学部教授）
3. 英語音声の特徴と聞き取り練習 2023年06月03日（土）1時限～4時限  
2023年06月04日（日）1時限～4時限  
**湯澤伸夫**先生（国際学部教授）
4. 写真文化論 2023年06月17日（土）1時限～4時限  
2023年06月24日（日）1時限～4時限  
**楨野佳奈子**先生（国際学部助教）

◎ 宇都宮大学公開講座（国際学部関連のみ）

1. 遠隔オンライン型「戦争から市民をどう守るのか～国際的な制度の歴史と現在～」

受講料：5,500円（税込）

定員：15名

会場：遠隔オンライン（Zoom使用）

プログラム：全5回 / 10:00~12:00

担当講師 清水奈名子先生（国際学部教授）

藤井広重先生（国際学部准教授）

7月06日(木) 第二次世界大戦と国際連合による平和の維持 清水先生

7月13日(木) 武力紛争下の市民の保護：冷戦後を中心に 清水先生

7月20日(木) 南スーダンにおける市民の保護

: 現場からみた「守ること」のジレンマ 藤井先生

7月27日(木) 武力紛争と緊急人道支援

: NGOの理念と役割 藤井先生

8月03日(木) 戦争犯罪を裁く

: 国際刑事裁判所の挑戦と課題 藤井先生

2. 対面・面接型「グリム童話をめぐって～グリム兄弟とその時代～」

受講料：11,000円（税込）

定員：20名

会場：峰キャンパス5号館C棟2階 5C21教室

プログラム：全10回 / 13:30~15:30

担当講師 橋本孝先生（国際学部名誉教授）

10月11日(水) グリム童話と伝説との違い

10月18日(水) 何故グリムは童話を集めたのか

10月25日(水) 19世紀とはどんな時代

11月01日(水) 第一次産業革命の影響

11月08日(水) 伝染病と文学

11月15日(水) 現代に生きるグリム童話

11月22日(水) カエル王さま

11月29日(水) 赤ずきん

12月06日(水) 白雪姫

12月13日(水) ドイツの古代研究と現代



## 特別寄稿

### 「国際学部学部長表彰制度の制定について」

中村 真

国際学部では、2022年度に、学部長表彰の制度を整備しました。この機会に、その経緯や目的について説明いたします。国立大学は、2004年度の法人化後、6年を中期目標中期計画期間と設定して運営されています。昨年度から第4期に入りましたが、宇都宮大学では、全学とともに、各部局（学部）でミッションを策定し、教育、研究、社会貢献、組織運営のそれぞれの区分で、ミッション達成のための戦略、施策を立て、達成状況を示す指標を設定して運営していくことになりました。

このような大学の運営について、みなさんそれぞれに感じられることやお考えがあると思いますが、国際学部でのミッション等策定とその実施の中で見えてきたことがあります。そこには、多くの課題もありましたが、それ以上に、国際学部の学生と教職員のみなさんのさまざまな分野での活躍がありました。この活躍をもっと見えるようにして、大学にも社会にもアピールする必要があると考えました。

宇都宮大学には、学長表彰として、大学構成員のさまざまな成果を表彰する制度がありますが、改めて学内の規程などを調べてみますと、学部長表彰という制度を整備している学部もあることが分かりました。国際学部では、これまで、このような制度がなかったために、学生たちが全国的なコンペティションで成果をあげても、また、教員が学会賞などを授賞しても、学長表彰の対象にならなければ、広く共有されるわけではありませんでした。これでは、せっかくの成果も目に見えませんが、国際学部がどのように社会に貢献しているのかも分かりません。また、活躍しても、所属組織から評価されているのかが分かりません。

そこで、運営会議を中心に検討し、2023年1月に、学部長表彰という制度を制定しました。学生の場合は、学部のディプロマ・ポリシーにかなう成果をあげた場合に、また、教職員の場合は、学部のミッション等に照らして顕著な成果をあげた場合に表彰し、学部HPなどを活用して、社会にも発信していくことにしました。制度ができてからまだ数か月ですが、これまでに、学生5名と教員2名を表彰しました。

このような制度を設けることで、国際学部のメンバーにさらに活躍していただきたいと思います。今後も、学部HPで情報発信していきますので、同窓生のみなさんにもご覧いただき、国際学部をこれまで以上に応援していただければ幸いです。（以上）

（2022年4月20日原稿受理）

**研究室訪問 57** 第9号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。



## 「ベトナム人日本語学習者にとっての文章の多義的曖昧さに起因して 発生する読解上の問題」

TON NU Thanh Tu

### 1. 博士論文要旨

日本語文を正確に理解できない学習者の問題は学習意欲の低減と絡み教育者にとって重要な課題であり、多義性を有する曖昧文が原因の一つであることが知られている。しかし、文の曖昧さに関してはベトナム語でさえ研究が少なく、日本語学習者の多義的曖昧さを有した文章読解における問題を解決する事に注目した研究を探することは極めて困難である。そのため、この問題について、問題解決のための合理的方法論以前に、問題が何に起因してどのように発生するか、という基礎的な知見さえ乏しい状況にある。本博士論文では、課題を解決する事のできる基盤を構築するため、ベトナム人日本語学習者にとっての文章の多義性に起因して発生する読解上の問題を明らかにすることを目的として言語的要因と認知的要因の両側面から分析した。以下に言語的要因を分析する第三章と認知的要因を分析する第四章において得られた結果をまとめる。

第三章では構造的曖昧さを有する文について、解釈分岐が発生する原因をそれぞれの構造的曖昧さに関して比較分析した。また、生成文法の X'理論に基づく句構成規則を使用し標準翻訳ベトナム語文 (S-TVS) を作成した。その結果、並列構造による曖昧さと名詞修飾構造による曖昧さを有する文では、日本語文の解釈分岐は並列構造と名詞修飾構造は Step3-1、述語修飾構造による曖昧さでは Step3-6 と、解釈分岐が発生する一つ下の階層での構成素結合に関し、2 通りの自由度が存在することに起因していることが分かった。そして、この 3 種類の構造的曖昧さの S-TVS において、日本語文で見られる全ての特徴が保存されたことから、日本語とベトナム語に本質的な違いは存在しないということが示された。しかし、その 3 種類と異なり、原構造による曖昧さを有する文では、日本語文の解釈分岐は句の構成規則が解釈分岐に関係する Step3 の階層ではなく、語の文内における役割を規定する階層である Step2 で発生した。これは Step1 の左端の語「あの人は」が、Step2 において原構造の主題化による語彙範疇の配列の移動を生じるかどうか、2 通りの解釈が存在することに起因していた。これに対し、S-TVS では、句の構成規則に基づいた樹形図の構成はできるものの、ベトナム語固有の文法法則により構成素の配置が制限され、解釈 b の生成ができないことが分かった。これらのことから、並列構造、名詞修飾構造、述語修飾構造に日本語とベトナム語で本質的に差異が無いのに対し、原構造による曖昧さだけは、日本語とベトナム語で本質的に異なっていることが示された。

第四章では、内省的情報処理過程を理解し、読解上の問題の発生要因とその発展過程をより鮮明化することを目的として中級学習者の読解上の問題を調査することにした。その

結果、並列構造による曖昧さを有する文における読解上の問題は、多義性に起因するのではなく、語彙や文法、特に語同士の関係を理解するために必要な情報が学習者に不足しているために生じていることが示唆された。また、名詞修飾構造による曖昧さを有する文では、読解上の問題は、語彙や文法知識の不足だけでなく、背景知識の欠如からも発生していることが明らかとなった。それに加え、学習者の常識に無い背景知識の充足が、さらなる混乱をもたらす可能性が示唆された。文の多義性は、これらの要素に相乗的に働き、混乱を助長させていることが考えられた。述語修飾構造による曖昧さを有する文では、読解上の問題の発生要因の多くは語彙や文法知識の不足による影響が大きいことが分かった。また、文の多義性は、語彙や文法知識、背景知識が充足された状態では他の類型よりも比較的認識しやすいものの、名詞修飾構造による曖昧さを有する文のような混乱をもたらさないことが示唆された。最後に、原構造による曖昧さを有する文を翻訳する過程において、読解上の問題の発生要因は、文の多義性に由来するものに起因しており、語彙や文法知識、背景知識の不足が原因ではないことが分かった。また、原構造による曖昧さを有する日本語文において、多義性を認識することができても、その過程において必要な内省的情報処理過程が非常に複雑であることが、学習者を混乱させている可能性が示唆された。さらに、文を精読し、多義性の存在を考慮した方が良い述語修飾構造のような類型がある反面、流し読みして考慮しない方が良い名詞修飾構造や原構造のような類型があることも考えられた。そして、構造的曖昧さを有する文を学習者が正確に理解できることと、多義性を認識できることは相反する現象であることが示された。

本研究による検討結果から、文法規則に起因する原構造による曖昧さが日本語には存在するが、ベトナム語には存在しないことが示され、構造的曖昧さを有する文において日本語とベトナム語には言語学的に本質的な相違点が見られることが明らかにされた。また、学習者の曖昧文の認知が非常に複雑であり、多義性だけでなく、語彙、文法知識、背景知識の影響も注目することが必要である。本研究により、ベトナム人日本語学習者の読解上の問題の発生要因については、文の多義性に加えて語彙や文法知識、背景知識があり、それらが組み合わされて作用することもあるという重要な知見を得た。

(国際学研究科 博士前期課程 国際文化研究専攻 第19期修了生)

(国際学研究科 博士後期課程 国際学研究専攻 第13期修了生)

(2022年3月22日原稿受理)

**知究人 37** 第9号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。

**海外だより 33** 第 27 号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

**海外留学今昔 32** 第 35 号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者および海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

**学生サロン 23** 知求会ニュース第 41 号より現役学部生・院生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

**キャリア指南 15** 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

**フォーラム** 2023 年の臯月を迎えて、皆様忙しいことと思います。（原稿集めに苦勞しています。）

### 「在日外国人が悩む就職難問題」

鄭 春美

外国人が直面する日本での就職問題について、留学生である当事者の視点から洞察に富む分析を試みたいと思います。日本での留学生活を送る外国人にとって、卒業は人生の岐路を意味します。それは、故郷へ戻るか、あるいは日本に留まるかという決断の時です。私自身も含め、多くの留学生は、日本での就職を望んでいると考えられます。しかし、就職活動は、日本人にも外国人にも公平でありながらも、厳しい戦いです。その闘いに参加する決意があれば、日本で働きたいという強い意志があると言えるでしょう。

だが、日本人に対しても厳しい就職市場では、外国人にとってさらなる障壁が存在します。例えば、暗黙の了解やルール、就職活動の開始時期、日本の独特な面接マナーなど、独自の文化による難題が立ちはだかります。さらに、日本企業が求める業務遂行能力や専門知識に加え、円滑なコミュニケーションが求められることもあります。

また、外国人労働者を悩ませるビザ問題も大きな課題です。働くためには、留学生の身分から就労者の身分への変更が必要です。その際、留学ビザから就労ビザへの取得が、専門知識を活かし、就職先での業務内容と関連性のある職種でなければ、ビザ取得の大きな

障害となります。このような状況を乗り越えるためには、外国人留学生は日本の制度や法律に精通し、柔軟な対応が求められます。

さらに、日本語の習得が言語の難所となります。日本語を使いこなし、周囲の人たちとコミュニケーションができるようになるまで時間がかかりますが、最終的に自信を持ち、相手と意見交換ができ、自分の考えや主張を伝えることができると、とても素晴らしいと思います。留学生は、日本語の習得に努力を重ね、日本語でのスムーズなコミュニケーションができるようになることが重要です。言語の壁を越えることで、留学生は日本での人間関係を築き、就職活動においても有利な立場を手にすることができます。

日本文化には難しい面もあります。自分の国で当たり前のことが、日本では通じない場合や理解されないことがあります。異なる文化、地域、人生、経験、教育、世界観、認識などを持つ人たちがお互いに理解するためには、異文化適応、異文化理解、異文化交流が重要です。留学生活や就職活動で役立つ基本事項ほど、説明し、理解させ、共有することが大切です。

留学生が日本での就職活動を成功させるためには、以下の 4 つのポイントが鍵となると思います。

#### 1. 自主性と積極性：

異文化間の違いを乗り越えるためには、留学生自身が主体的に行動し、積極的にチャレンジする姿勢が求められます。自らの意志で行動し、困難に立ち向かい、果敢に取り組むことで、留学生は日本での就職活動において成功へと近づくことができるでしょう。

#### 2. 自己成長：

留学生は、異文化や人々と触れ合うことで、自分の価値観や考え方を広げ、成長することができます。また、日本での就職活動を通じて、自分のキャリアや人生に対する新しいビジョンを持つことができるでしょう。この自己成長の過程は、留学生にとって自分自身の人間性を磨く貴重な機会となります。

#### 3. 人間関係の構築：

異なる背景を持つ人々との出会いや交流は、留学生にとって大切な財産です。新しい友達や同僚との交流を通じて、異なる考え方や価値観に触れ、自分自身をより深く理解することができます。また、異文化交流を通じて築かれる人間関係は、将来のキャリアや人生においても大きな支えとなることでしょう。このような人間関係の構築は、留学生の心の支えとなり、新たな挑戦への勇気を与えてくれます。

#### 4. 困難への対処と挑戦：

新しい挑戦には、困難や不安も伴いますが、それを乗り越えることで得られる自信や成長は計り知れません。留学生は、日本での就職活動を通じて、新しい環境に適応し、自分自身を成長させることができるでしょう。そのためには、前向きな姿勢や積極的な取り組みが必要です。こうした姿勢が、留学生が困難に打ち勝ち、日本での就職活動に成功するための大きな力となります。

留学生が日本での就職活動を成功させるためには、継続的な努力と挑戦、そして自分自身を信じるのが大切です。今後も、留学生たちは困難に立ち向かいながら、日本での新しい生活や仕事環境に適応し、自己成長を実現していくことでしょう。

最後に、留学生や日本企業が互いの強みを活かし、共に成長し、より良い未来を築くことを願っています。留学生たちが、日本での就職活動を通じて、新しい環境や文化に適応し、自己成長を実現し、自分の夢を追求していくことができるよう、支援が続けられることを期待しています。また、日本企業も留学生の多様なバックグラウンドやスキルを活用することで、新たな発展やイノベーションを創出し、国際競争力の強化につなげることができるでしょう。

そして、留学生たちが、自分たちの力で日本社会に貢献し、日本と母国の友好関係の発展に繋げることが期待されます。このような相互の成長や交流は、日本と留学生たちの母国との絆をより強固にし、世界中で互いに理解し合い、共生する社会の構築に寄与するでしょう。

留学生たちが抱える日本での就職活動の難しさや悩みを乗り越えることは、容易ではありませんが、それぞれの努力と困難を乗り越える強い意志が、日本での成功への道を切り開くでしょう。そして、留学生たちが日本での就職活動に成功し、夢を追い求める姿は、次世代の留学生たちにとっても勇気と希望を与える光となることでしょう。

(国際学研究科 博士前期課程 国際交流研究専攻 第9期修了生)

(国際学研究科 博士後期課程 国際学研究専攻 第9期修了生)

(2022年4月10日原稿受理)

### 「人生第二の転機となった上海ロックダウン」

古屋敷 幹

皆さんこんにちは。私は2000年に宇都宮大学国際学部国際社会学科を卒業し、2002年に宇都宮大学院国際学研究科国際社会研究専攻を修了した古屋敷幹と申します。今回は先輩土屋様よりご依頼いただき、OBOG へ向けた文章を書かせていただくことになりました。

宇都宮大学および大学院から離れてすでに20年以上の年月がたっておりますが、こうして宇大に関わりを持てることに喜びを感じております。

まず、簡単に経歴を紹介しますと、国際学研究科に在籍しつつ、2001年9月から2002年8月、復旦学に短期留学をいたしました。文部科学省の短期留学推進制度を利用した留学で、当時の指導教官、伊藤一彦先生には推薦状の執筆など大変御世話になった記憶があります。1年間の留学を終え、23歳の私は、このまま帰国しても中国語や中国経験が中途半端になるという危機を感じ、上海で働ける日系企業に就職活動を行いました。幸い本社採用で上海駐在という好条件で職を得、いったん日本に帰り修論執筆に明け暮れた後、無事修士課程を修了、フレッシュマンとして上海に渡ったのでした。

その後縁があり上海人と結婚し息子が生まれ、当初は2、3年の経験を積んだら日本に帰ろうと思っていたのに、気づけば22年も上海で暮らしていたのでした。

仕事に明け暮れた20代、子育てに翻弄された30代、そして自分の時間と子育てと仕事と家事、やっとバランスがとれてきた40代が始まった途端、コロナウイルスが現れました。当初今までもよくあった新型インフルエンザの新種だろうと高をくくっていて、武漢が実家の友達とも、ま、マスクしていれば大丈夫でしょ、などと悠長な会話をしていたことを覚えています。

しかし、結果は皆さんご存じの通り、世界中を巻き込んだ数百年に一度のパンデミックに発展しました。パンデミック当初は武漢など一部の地域は強硬なロックダウンを行いましたが、上海は強制的な閉じ込めはなく、みな自己判断に基づいたモラル的な行動をとっていたことが記憶に残っています。2020年の5月くらいには、中国は日常を取り戻し始めました。学校も再開し、職場も行けるようになりました。世界の国々がまだコロナに苦しむ中、中国国内では感染を抑えほぼ日常と変わらない生活ができているのはゼロコロナ政策が正しい証だと誰しもが思っていました。

そして迎えたコロナ3年目の2022年2月。上海ではコロナ3年目にしてこれまでなかったほど感染者が急激に増えはじめ、3月に入ると市内の学校がまさかの一斉にオンライン授業に。2020年の半年に及ぶオンライン授業の悪夢がよみがえり、親たちはパニック状態。それでも、きっと4月頭の清明節明けには学校に行けるはず。2、3週間の辛抱よ、とママ友同士チャットで励まし合っていました。が、結論から言うと、小学校最終学年（中国の小学校は5年制）だった息子は、この後1度も対面授業を受けることのないまま卒業することになったのです。

学校はオンラインになっても出勤は続けていましたが、感染者はもちろん、濃厚接触者、濃厚接触者の接触者が出た建物はなんの前触れもなく突然閉鎖され着の身着のまま会社に何日も缶詰にされるという状況が頻発。いつ自分が会社や出先で閉じ込められるか怯える日々を送っていました。そして3月末になると「上海市全体がロックダウンするらしい」という噂があちこちから聞こえるようになりました。武漢のロックダウンの過酷さは誰も

が知るところでしたので、人々は戦々恐々。しかしこの噂はすぐさま政府によって否定され、噂を流した犯人とされる人が逮捕されるに至ったのです。市民たちは「よかった、ロックダウンはないのだ」と安堵したのですが・・・ロックダウンを否定したわずか数日後、市政府は「上海市を西と東に分けて時間差それぞれ4日間のロックダウンを実施する」と発表したのです。完全にあっけにとられてしまいました。つい数日前、「ロックダウンはしません！悪質な噂を流した犯人は逮捕しました！」って言っていた同じ口が「明日からロックダウンします」。もちろん、ロックダウンの噂を否定したことなんてひとつも触れず、完全になかったことになっています。この国、やばいかも・・・私のこの中国に対する警戒心レベルが一気に2段階くらいあがった瞬間でした。

「上海の東と西それぞれ4日間のロックダウン」。我が家がある東側は3月28日から始まり、4月1日に終わるはずでした。しかし4月1日に解除されることはなく、西側も4日という約束は当たり前前に反故にされ、上海全体が終わりの見えないロックダウンに突入しました。ロックダウンといっても、欧米では散歩したり近所のスーパーに行ったりということは許されていたようですが、上海のロックダウンは文字通り家から一歩も出ることができません。出られるのは唯一PCR検査を受けるときだけ。太陽は心地よく木々の緑や鮮やかな花の色が美しい4月。上海の人々は美しい花を愛でることもできず、春の爽やかな空気の中散歩することも許されず、ただただ家にとじこもっていたのです。

ただでさえ鬱々とする引きこもりの日々、一番堪えたのは食べ物の問題でした。家から出られないのなら宅配を利用するしかありません。でもネットスーパーは毎朝5時のオーダー受付開始から数分で配送予約一杯となり買える見込みはほぼゼロ。しかも、買えたとしても品薄すぎて本当に欲しいものなど買えません。頼みの綱は配給。しかし配給は「街道」という末端の行政単位がそれぞれ独自に手配したため、街道によって配給内容に大きな差がありました。我が家の所属する街道はかなり行けていない部類で、まず、ほかの地区が配給をかいししても全く音沙汰なし。他の地区から遅れること10日ほど、やっと届いた配給は偽物ブランドだらけ。本当にほしいのは米や肉や乳製品なのに、届くのは東南アジアの怪しいインスタントラーメンやら得体の知れない真空パックの肉やら・・・「おまえらはこれでも食っとけ」と言わんばかり・・・。

さらには街道の役員の横流しや横領が次々と明らかに。上海の人々が、コーラー1本手に入らず、物々交換の日々を送っているとき、街道役人の会議室に飲み残しのコーラーやビールが散乱している動画などが出回り、この国の政府、役人、システムすべてに対する不信感がピークに達したのです。

食べたいものが食べられない、ではなく、食べ物が無い、という切羽詰まった悩みを21世紀の大都会上海で抱えることとなるとは・・・きちんと3食食べられる囚人の方がまだましなのではないかとさえ考えてしまうほど、精神的にも肉体的にも追い詰められたロックダウンの日々を経験したことで、それまで全く考えていなかった「本帰国」という選択肢が現実味を増していきました。ちょうど息子が中学入学を控える年だったこともあり、



どうせ帰国するなら帰国子女枠で受験ができるタイミングがよいということになり、帰国を決意しました。

上海留学をするまでは自分が中国に22年も住む事になるとは夢にも思っていませんでした。そして上海ロックダウンを経験するまでは息子が日本の中学に通うことになるとは全く考えもしませんでした。人生とは本当に、予想できないことが起こるものです。しかし、導かれてたどり着いた場所で精一杯生きていけば、また次の大きな波が来てもうまく乗りこなすことができると信じています。

長々と自分語り、失礼いたしました。最後に、会員の皆様のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

(国際学部 国際社会学科 第2期卒業生)

(国際学研究科 修士課程 国際社会研究専攻 第2期修了生)

(2023年4月20日原稿受理)

### 東南アジア支部だより

第63号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん(国際学部社会学科第1期生・国際学研究科国際社会研究専攻第1期生)が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019年4月から、年4回から年2回発行(4月1日、9月1日)の変更になりました。

### EU支部だより

第38号からイタリア在住の**松原真実子**さんによる知求会EU支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の46号の内容は、1. イタリア ChatGPT 禁止措置 EU のプライバシー規制当局が関心を示す 2. 「ChatGPT はプライバシー侵害」イタリアに続き EU 各国も利用禁止を検討中? 3. EU 支部だより —人工知能—です。

### 編集者のひとりごと

●前号において一斉メールに支障がありました。BBC 宛メールが無事に届かなかったことです。もし、届かない場合は国際学部同窓会 HP からダウンロードをしてください。配信時期は毎年4回(4月1日・5月1日・9月1日・12月15日)です。

---

編集後記：2010年4月26日から **知求会ニュースのバックナンバー**は **国際学部同窓会 HP** (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっていきます。

同窓会会員の皆様へのお願い：**住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。**[chikyukai@freeml.com](mailto:chikyukai@freeml.com)

---

宇都宮大学大学院国際学研究科同窓会